

日刊 石城時報 第九十期 昭和七年二月二十二日 第七千四百六十一號 (一)

奮闘の鋒をおさめて 明日を待つ四候補 勢力相伯仲の状況 佐藤候補に非常な同情

第三区に於て数回に亘り入り亂れ奮闘した四候補者の逐鹿戦も愈々限りで最後の幕を閉じ静かに明日の運命を待つ事になった。四候補者の現勢はどうか、各方面の情報を綜合して極めて公平に觀察すれば石城郡から立候補した政友會鈴木辰三郎氏は支持する人に前代議員木村清治氏を筆頭とし元代議員土井博之、安島重三郎、赤坂龜次郎氏等あり、その他縣會議員級の人として古川傳一氏が自ら事務長として采配を振り、井上茂作氏も亦

平町を中心とし奮闘した上縁故を辿つて相馬方面に手を延ばし、郡南には又金成通氏あり水も渡らざる運動をつづけた結果として断然優勢を傳へられたるのは當然な事である、而かも内郷、好間、湯本等の炭礦所在町村に於ては壓倒的勢力を示し、江名、豊間、小名濱等漁村に於ても優勢で且つ又郡南は古川、金成兩氏の睨みで政友の地盤微動もせず、相馬、双葉兩郡に於ける活躍も奏効し目下の心な結束成り形勢極めて有利であるが、相馬方面は政友派幹部の中で鈴木派に走る者もあり相

中非常な同情集まり連日奮闘の結果苦境を脱して當選圏内に到達し最後の榮冠を握る事最早確實となつた。

石城郡の開票立會人

第三区各候補者の開票立會人は左の如く届け出があつた
▲鈴木派、平、千葉彦治、植田山崎登、小川、柴崎佐之吉
▲比佐派、平、吉田寅之輔
▲植田、石川徳壽、小川、草野三郎
▲佐藤派、平、馬目雄二郎、植田飯塚榮治、小川、鈴木勇
▲田、飯塚榮治、小川、鈴木勇
▲氏家派、平、野崎滿藏、植田江尻彦次郎、小川、永山久助

惡戰苦闘を續けた 雪辱戦の佐藤候補 一度だけ當選させたい 縣會議員田子健吉氏談

選挙日は愈々明日に迫つた、第三区の開票立會人は数回に亘る奮闘の鋒をおさめて最後の運命を待つ事になった。前回の雪辱戦の意味で相馬、双葉兩郡から名乗りをあげた政友派佐藤辰太郎氏のため日夜奮闘した縣會議員田子健吉氏は十九日往訪の記者に最後の感想を左の如く語つた。

「どうも相馬、双葉の方面もなかく樂觀はゆるせぬ、十六日からこの兩郡に向つて言論戦を開始した、石城郡も同情は勃然と起つてゐるが安心は出来ぬ状態にある、何分石城には部會の候補者鈴木君があるから佐藤候補進出は不可能であり、また同志打ちも

棄權を防止したい 伏見平町長談

總選挙も愈々明日と迫りました此際有権者諸君に特に望みたくことは棄權をなさぬことである。本町從來の棄權率を見れば普通第一回の昭和三年には九分九厘、第二回の昭和五年には七分一厘であつた漸次棄權率低下せることは實に喜ぶべきことである。明日も必ず萬を排して投票所に御出になり選舉せられんことを切望致します。執行されるが本年は志願者多く十九日現在で二十三名明日中に志願を締切ること

政治生活五十年 常に不遇の佐藤候補 身命を賭した雪辱の一戦に 同情翕然と集まる

昭和二年の選挙に際し相馬郡松本孫右衛門氏の身替りとなり候補者となり不幸落選の憂目を見た佐藤辰太郎氏は今回の選挙に際し再び松本孫右衛門氏の推薦をうけ第三区政友會公認候補となり相馬双葉を中心としてあの老軀を携げ奮闘を續けてゐる。佐藤辰太郎氏は石城郡神谷村

身した彼の最後を飾るため一度出たやれ」といふ同情にみだされた佐藤候補ははじめわれら運動員も最後の二戦に多年の功に酬えてやりたいと寝食をわすれて戦つてゐる。何せいさゝか立ち遅れの氣味である上に敵が巧な戦術で向

選挙権の行使を誤るな

投票日は愈々明日に迫つた、有権者はその各自の所有する所謂清き一票の行使を誤らず自己の信する最良の候補者に對し極めて自由に投票すべきである。石城郡民は石城の政黨が推した候補者を支援すべきであると言ふ意見を吐く人もあるらしいが之は中選挙區を設けた精神から考へ誤れる判断と言はざるを得ない。即ち吾々有権者は限られたる選挙區石城、相馬、双葉三郡を通じての候補者中自己の信する何人にも投票し得るは勿論で縁故、情實に補はれず公平無私に選挙権を行使せねばならぬ。

海軍志願兵検査

平町の海軍志願兵検査は三月一日から三日まで平第一小學校で執行されるが本年は志願者多く十九日現在で二十三名明日中に志願を締切ること

友人である。石城郡上野野村赤坂龜次郎氏が最初に代議士候補の名乗りを挙げた時に駆け付けて選挙に参加したのが始まりで自由黨に身を投じて本縣政友會の爲に寝食を忘れて奔走し支部幹事長の職にあること前後通じて七年、名幹事長の名を博して居たが、縣會議員二期で常に犠牲候補となり落選も二期、又衆議院も小選挙區時代競選の野で栗山氏と争つて敗れ、前回は松本孫右衛門氏の身代りに起つて落選し、選挙では不遇の地許り歩いて居た。今回は前回の雪辱戦の意味で敢然と出馬し双



大字中神谷字瀬戸七十八番地に居住し明治三十二年二月十日生れの本年六十三歳である、十八九歳から政治に志し犬養總裁とは青年時代から

福島縣下 産業組合大會

昭和七年度の縣下産業組合大會殺した。

傳染性貧血症

村大字八旗八油屋末吉所有牝馬の傳染性貧血症と決定十九日撲殺した。

相馬郡を唯一の地盤として日夜奮闘をつづけてゐるが、何しろ強敵氏家清氏との對陣であるため常に壓倒され氣味で決して樂觀を許されぬ状態である。然し佐藤候補が

「政治生活の最後である」と悲壯なる決意を知つた人々は佐藤氏に最後の花を咲かせ、過去四十年の政治的功勞に酬へやうと同情的に活動をつづけてゐる同志多く、石城郡に於ても又同様の同情を有してゐる人が多から今回こそ見事當選の榮冠を握るであらうと察せられてゐる。

推薦廣告



立憲政友會
公認候補者

佐藤庄太郎君

十八歲以來四十餘年間政治生活
に奮闘した同君に對する最後の
酬ひとして衆議院議員候補者に
推薦し極力その當選を期す。

推薦者

平町字古鍛冶町三番地

山崎與三郎

平町字搔槌小路二十四番地

新田目善次郎

平窪村大字中平窪字桂進廿番地

松崎松治

平町字久保町二十一番地

永山和平

平町字鎌田町四十二番地

草野七五三之助

責任者 平町字久保町二十一番地
永山和平